非核・いしかわ

2023 年 5 月 20 日　月刊第 298 号

〒920-0848 金沢市京町 28-8　石川民医連労働組合気付
非核の政府を求める石川の会
TEL 076-251-0014　FAX 076-251-3930
http://hikakuishikawa.com/

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の署名は 92 か国、批准は 68 か国（5 月 15 日現在）

1 面　琉球弧の軍事要塞化と進む戦争準備　清水早子
3 面　アメリカのための「自由で開かれたインド太平洋」　五十嵐正博
4 面　2023 年平和行進にあたって　県内各自治体に協力要請　新井田義弘
5 面　漫画『はだしのゲン』連載開始　50 周年記念イベント in 広島
6 面　平和だからこそ！　越田和世
6 面　合唱三昧の日々　北川晴美
7 面　<独標>わたしの 5 月　ななお瑠津
編集室より
8 面　戦争遺跡と平和の記念碑　佐藤公男
絵手紙コーナー　竹味恭子

講演要旨

琉球弧の軍事要塞化と進む戦争準備

「ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会」共同代表　清水 早子

パレードに参加する清水さん（前列右から 2 人目）

日米軍事一体化を告発する清水早子さん

◆琉球弧に押し寄せる軍拡の嵐

昨年末より日米両政府から軍拡の嵐が沖縄、とりわけ宮古・八重山の琉球弧に怒涛のように押し寄せている。一二月一六日、国会審議もなく閣議決定された『安保三文書』は明らかに沖縄を最前線にする安保戦略の大転換である。

その直前一二月一一日に宮古島で行われた航空自衛隊開設五〇周年を記念するブルーインパルスの飛行はこの軍拡攻勢と連携していた。〝台中危機〟が、さも迫っているかのように煽りに煽って、軍事費増大の必要性とそれを捻出する増税に国民の同意を取り付けるため、防衛省は〝国民に受け入れられる自衛隊〟作りに躍起になっている。そして島々の空港・港湾を平時でも日米共同で使用したい目論見の突破口として、彼らの悲願である宮古の下地島空港の軍事利用を画策したが、それは沖縄県の拒否と、私たち宮古島住民と全国から結集した仲間の反対行動で頓挫している。

花鳥風月

五月五日の珠洲地震でお亡くなりになった方、被害を受けた方々に、心よりご冥福とお見舞いを申し上げます▼珠洲での地震のニュースはこの二年ほど頻繁に続いているが、その都度思い起こすのは同市の寺家と高屋に建設しようとしていた珠洲原発のこと。一九七五年の発表では関電・中電・北電の三社で、一三五万ＫＷクラスを二基設けて二〇一四年運用開始の計画だった▼以来二八年間、二〇〇三年の計画撤回まで、市全体でも各町内でも、賛成・反対の対立が激化。関電・中電・北電による猛烈な札束攻勢が展開されたと云われている。市長選はじめ各種選挙はみな原発誘致が争点になった。町内は分断され、お祭りができなくなった地域もあった。反対運動は熾烈をきわめたが、ついに二〇〇三年一二月五日、計画凍結が発表された。反対運動の見事な勝利だった▼珠洲原発建設中止から今年は二〇年。当時、地震は問題になっていなかったが、今回のＭ（マグニチュード）は六・五で「震度六強」だった。もし建設されていたらと思うとぞっとする。ちなみに阪神淡路大震災（一九九五年）はＭ七・三、東北地方太平洋沖地震（二〇一一年）はＭ九・〇だった。（に）

前段の一二月一〇日、全国反戦交流会には、北海道から福岡まで、全国各地の反戦反基地を闘う仲間が集い、市立中央公民館大ホールは二〇〇名の参加で満杯になった。一一日の当日は、強硬に宮古空港に着陸したブルーインパルス六機に対して、空港フェンス沿いから一五〇名の抗議行動を展開し、新市役所から旧市役所まで二・六キロのデモ行進を敢行した。

日米共同統合訓練『キーン・ソード二二』（二二年一一月）では、台湾に近い与那国島の自衛隊基地内に米軍が入り、町中の公道を、大砲をむき出しにした戦車が走った。与那国島の糸数町長は町議会と共に「島を出たい者には金を出す」と条例化し、棄民施策を行おうとしている。

今年二～三月には、陸自と海兵隊は島嶼防衛を想定した訓練『アイアン・フィスト』で、基地のない徳之島において上陸揚陸船ＬＣＡＣが行き交い、上空をオスプレイが飛んだ。喜界島では陸自空挺団の隊員一〇〇名がパラシュートで降下した。ここ数年切れ間なく、日米共同の実戦訓練が続いている。

石垣島でも三月、軍用車両が導入され、多数の機動隊によって反対派が実力排除され、軍事物資搬入が強行された。数日後には弾薬も搬入され三月一六日、ミサイル基地石垣駐屯地が開設された。宮古島で三年がかりで整えられた態勢を、石垣島では一気に行われた。なりふり構わず一気呵成に戦時態勢に突き進んでいる。米海兵隊は、琉球弧の島々に海兵沿岸連隊（ＭＬＲ）として再編された即応部隊を配備し、沖縄を戦略拠点化しようとしている。

陸自は、与那国島に後付けで『ミサイル部隊』配備を計画し、第一五旅団を師団に格上げ（師団は五千～六千名の部隊で単独で戦争遂行できる規模）、那覇基地に地下司令部を、勝連基地には陸自の地対艦ミサイル部隊本部を配置するという計画も明らかにしている。日米軍が連携する大軍拡が沖縄にもたらされている。

◆戦場化を想定し、際立つ強硬姿勢

今年三月の国会では、四三兆円をかけ、一〇年後までに約三〇〇の自衛隊基地の司令部の地下化や火薬庫の整備など〝強靭化〟計画が明らかにされた。これは日本全土の戦場化を想定している。一方、平和への外交努力は皆無で、無理やり戦争の火種を作り出しており、日本社会には新たな戦前の空気が流れ、膨大な軍事費を増税でもって国民に負担を負わせようとしているのに、国会前が万余の人々で埋め尽くされることはない。

四月六日午後、宮古島の海上に第八師団長含む一〇名の搭乗する陸自ＵＨ六〇ＪＡが消息を絶った。痛ましい事故である。しかしなぜ熊本の第八師団長が宮古島の下地島空港に近い海上を偵察していたのか？そして、その二日後の八日午後に、在韓米軍のＦ一六戦闘機二機がエンジントラブルを理由に、下地島空港に着陸を強行し、その翌日、Ｃ一二輸送機二機が着陸して資材を搬入したが、その際の警備員は銃を携行していた。昨年三月の警備訓練を撮影していた新聞記者に米兵が銃を向けていた映像は衝撃的だったが、今回も相変わらず植民地意識丸出しの傍若無人ぶりである。墜落機搭乗の二名を海中から引き揚げるまで八日間も居座り、一六日に下地島空港を離陸した。このタイミングにも深い疑念が残る。

下地島と陸続きの伊良部島では連日、海岸沿いに軍用トラックやジープが走り回っている。その上、捜索とも隊員の輸送とも関係のない「軽装甲機動車」（戦場を走る戦闘車両）が走行し、全島で軍事訓練を行っている。人命救助、救難活動を理由に批判しにくい空気を醸成しており、マスコミも忖度、自粛しているようだ。

◆日米軍事一体化に反対の声を

下地島空港は軍事利用させないという、一九七一年に当時の琉球政府と日本政府で交わされた『屋良覚書』を現政府・防衛省は反古にし、島々の空港・港湾の軍事利用の突破口にしている。

軍拡と同時に〝戦争を作り出す〟法整備も着々と進められている。昨年六月に成立した経済安保法では、官産学で軍事優先の体制が強化され、九月の重要土地調査規制法で個人情報の収集と国家一元管理化が進められている。

下地島空港への自衛隊誘致策動から始まり、ミサイル基地・弾薬庫建設が強行された宮古島の要塞化の総仕上げが、再び下地島空港の軍事化である。

この日米の軍事一体化は、ついに沖縄南端の島々に米軍が来る事態にまで至った。これは国境の島で緊張を生み出す挑発であり、そんな米中の戦争準備に決して加担してはならない。

私たちはこれからも闘っていかねばなりません。全国の仲間とともに、離島を最前線にする愚かな国策に反対の声を挙げていきましょう！

（文責・非核いしかわ編集部）

◎憲法改悪ＮＯ！市民アクションが五月三日に金沢市内で開いた「平和憲法施行七六周年記念石川県民集会」の講演要旨です。

アメリカのための「自由で開かれたインド太平洋」

代表世話人　五十嵐正博

「結論ありき」の有識者会議

岸田内閣は、二〇二二年九月三〇日「国力としての防衛力を総合的に考える有識者会議（以下、有識者会議）」を立ち上げ、たった四回の会合を経て、一二月二二日、「報告書（案）」を提出しました（安倍内閣の「安保法制懇」は七回の会合と八回の非公式会合。六月四日の衆院憲法審査会で三名の憲法学者がそろって集団的自衛権行使は憲法違反、と陳述）。「有識者会議」第一回会合において、秋葉剛男国家安全保障局長は、「日本を取り巻く安全保障環境や防衛力の抜本的強化等について・・・ロシアによるウクライナ侵略、中国の力による一方的な現状変更の試み」があり、「ロシアによるウクライナ侵略のような事態は将来、インド太平洋地域においても発生し得る」と発言、また、林芳正外相は、「力による一方的な現状の変更の試みが正面からされるようになった。・・・ルールに基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化に向け『自由で開かれたインド太平洋』の実現に向けた取り組みを強化していきたい」と述べました。

「防衛力の抜本的な強化」「反撃能力の保有・強化」という「結論ありき」の有識者会議。

そして、一二月一〇日、臨時国会終了を待って、「防衛力の強化・防衛費の増額」を謳い、敵基地攻撃能力（反撃能力）をも認める「安保三文書」をとりまとめ、一六日に閣議決定、同時に防衛費の増額方針を盛り込んだ税制改革大綱を自公両党が決定、あからさまな憲法違反の暴挙であり、これが、ことあるごとに「法の支配の重要性」を声高に発信する政府の所業です。

「中国の海洋進出」と「自由で開かれたインド太平洋」

日本の外務省、防衛省が、中国の「海洋進出」に大きな関心を示すようになったのは、特に二〇一六年以降と思われます。『中国情勢（東シナ海・太平洋・日本海）』（二〇二二年七月、防衛省）は、たとえば、「東シナ海での活動」について「二〇一六年六月、中国海軍のフリゲート艦が尖閣諸島周辺の接続水域に入域」、「太平洋への進出」について「二〇一六年一二月・・・空母『遼寧』が太平洋へ進出」、「日本海への進出」について「二〇一六年八月、中国海軍艦隊による『対抗演習』の実施が公表」などの記述が見られます。同年七月、安倍元首相は、モンゴルでの「アジア欧州会議」で「力による現状変更は認めない」と発言し、八月にケニアでの「アフリカ開発会議」で「自由で開かれたインド太平洋戦略」を打ち上げたのでした。

『「自由で開かれたインド太平洋」ビジョンにおける防衛省の取組』（二〇二〇年七月）によれば、日米・日英・日米豪の共同訓練の実施などが「インド太平洋地域での協力の例」として挙げられています。中国の軍事活動は批判し、自らの活動は正当化するという二重の基準です。

インド太平洋における軍事基地

インド太平洋における軍事基地の詳細を述べる余裕はありませんので、それらの一部について述べましょう。アメリカは四一カ国に五一七の基地・施設を保有しています。太平洋地域には、グアムと米領サモア二つの植民地を保有し、グアムに海軍・空軍基地に加えて、二〇二三年海兵隊基地を開設しました。その他、ディエゴ・ガルシア（イギリス領、アメリカに貸与＝インド洋における米軍最大の基地）などがあり、ハワイには一三の基地が、日本全国の在日米軍施設・区域は七八あります（その七〇％が沖縄に集中）。

フランスは、仏領ポリネシアとニューカレドニアの二植民地を保有し、それぞれに陸海空軍と国家憲兵隊部隊（機動隊）をおいています。「機動隊」は独立運動に対処するものと考えられます。米仏両国は、国連憲章上の「植民地の自治を発展させる」義務、「自決権」の重大な違反です。

イギリスは、シンガポールに、「支援部隊」をおきます。

中国は、二〇一七年ジブチに「海軍支援基地」を建設し、タジキスタンに「駐留基地」があるようです。ジブチには、米・仏・伊・独・スペイン・日本も基地をおいています。

日本政府がしきりに掲げる「自由で開かれたインド太平洋」のスローガンは、「アメリカが支配する」「アメリカのための自由で開かれたインド太平洋」に外ならず、日本を「戦争をする国」にするための方便でしかありません。

二〇二三年平和行進にあたって
県内各自治体に協力要請

新井田義弘

五月八日から一二日に県秘書課・県議会事務局をはじめとして珠洲市・能登町を除く一八自治体と議会を訪問して二〇二三年国民平和大行進への協力要請を行いました。珠洲市・能登町は地震対応を考慮して二〇日過ぎに延期しました。内藤晴一郎県原水協代表理事と新井田義弘事務局長・非核の政府を求める石川の会事務局長の神田順一さん、被爆二世の会世話人の池田治夫さんも参加しました。日本共産党の地方議員さんにも参加をお願いしました。

今年の平和行進は、昨年来続いているロシアのウクライナ侵略戦争での核兵器使用の威嚇のもと、核兵器が使われかねないという恐怖の下での二年目の平和行進となります。それだけに、絶対に核兵器は使わせてはならない・新たな被爆者を生まないためには核兵器は廃絶するしかないという世論を日本国中・世界中に広げるために、今回の国民平和大行進を大きく成功させていかなければ、と決意していることを、自治体訪問の中で申し上げてきました。

穴水町では、役場のロビーでの原爆パネル展の開催を要請し検討してもらうことをお願いしました。

かほく市議会では杉本成一議長さんと懇談。以前、政府に「核兵器禁止条約への参加求める意見書決議」の要請に伺って懇談した際に同席されていたこともあり、重ねてご尽力をお願いしました。

野々市市では「議員ウォッチ」石川訪問の要請を受けて、非核の政府を求める石川の会が粟貴章市長・北村大助議長さんとの懇談のお願いを申し入れていましたが、五月二六日午後二時三〇分からと正式に了解をいただきました。

県知事室秘書課長福田年通氏と左が新井田、中央が佐藤正幸県議

かほく市議会杉本成一議長（右）と高橋成典市議（中央）

野々市市議会北村大助議長（左）と岩見博市議（中央）

白山市・川北町の両議長より政府への要請署名を受け取る

今回の要請訪問にはG7広島サミット開催にあたっての「日本政府への要請署名」も事前に届けました。それには白山市議会の水島章光議長が事務局に署名を預けてくださいました。川北町議会への訪問では西田時雄議長本人から署名をいただいて懇談しました（右の写真）。

川北町議会西田時雄議長（左）から署名受理

原水爆禁止世界大会にむけて広島・長崎まで歩く国民平和大行進は、今年六五周年を迎えます。核兵器廃絶を願う人が誰でも参加できる運動として発展し、近年は全都道府県と全自治体を通過し、一〇万人以上が参加する一大〝草の根〟行動となっています。今年二〇二三年の平和行進は、核兵器禁止条約発効三年目の平和行進です。

全国的には、今年も五月六日東京夢の島、五月七日北海道礼文島を皮切りに全国一一幹線でリレー旗先頭に行進します。石川県を通る「富山↓広島コース」は、五月三一日（水）富山県朝日町を出発し、六月一〇日（土）に県境の津幡町九折で石川県に引き継がれます。

（原水爆禁止国民平和大行進石川県実行委員会事務局長）

漫画『はだしのゲン』連載開始
五〇周年記念イベント in 広島

「週刊少年ジャンプ」での連載開始から今年六月で五〇周年を迎える漫画『はだしのゲン』は、作者・中沢啓治さんの実体験をもとに描かれています。これまで二四言語に翻訳され、世界中で読まれています。この節目に向けて、昨年暮れに広島が活動の拠点であるＮＰＯ法人 ANT-Hiroshina が呼びかけ、ＮＰＯ法人はだしのゲンをひろめる会、プロジェクト・ゲン等が協力して、五〇周年記念イベント実行委員会を立ち上げました。

映画上映やトークイベントを通して『はだしのゲン』の魅力や価値を語り合う五〇周年記念イベントを開催します。上映会やフィールドワークは広島でのイベントですが、プレ企画のトークイベントはオンラインで全国どこからでもご参加いただける企画になっています。

（五〇周年記念イベント実行委員会）

同封の案内チラシをご覧ください。はだしのゲンをひろめる会 HP にも詳しいイベント情報が掲載されています。

五〇周年に寄せて
ゲンの翼
はだしのゲン 翻訳者たちの物語

世界には様々な民族があって その数は数千になるそうです。その多くの人たちは それぞれの言語や文化や歴史を持っていますが 悲しみの感情はみな同じです。自分の知らないことは後ずさりしがちで怖いけれども 謙虚にもなり 新しいことを知ろうとする力にもなるものです。逆に知らないということが 偏った見方や差別となって争いごとを起こしかねません。お互いに知ろうとし 理解し合うために努力をすれば 争いの芽を摘み取れるかもしれません。誰かが大切にしているものを踏みつけることは 争いの種や芽を育てることになってしまわないでしょうか。

理解するということは 同じになるということではありません。自分のことを主張する前に 相手の立場を想像してみるということです。それを積み重ねていけば きっとより穏やかな社会になるに違いありません。

若い人たちの国際交流やお互いを理解する力が 大きな鍵を持っています。

二度と原爆を使ってはならないと決心して 広島の焼け跡に立ったゲン少年ジャンプ連載から五〇年経った今ゲンは いくつもの言葉を話す少年となり 世界各国を歩き回っています。コツコツと 争いの種を取り除いて代わりに平和の種を植える仕事をしています。どうぞ皆さんゲンを応援してください。

（プロジェクト・ゲンからのメッセージ）

核兵器廃絶いしかわフォーラム　石川から発信する　わたしたちの "次の一歩"

日　時　５月２７日（土）９：30～11：00
会　場　金沢歌劇座 ２階大集会室（２）
特別報告　中村 涼香　（KNOW NUKES TOKYO 共同代表、長崎出身の被爆３世）
石川からの活動報告
　横山 加奈子（核戦争を防止する石川医師の会 副代表世話人）
　神田 順一　（ＮＰＯ法人はだしのゲンをひろめる会 事務局長）
　新井田 義弘（核禁条約署名石川県連絡会 事務局長）
進行役　井上 英夫　（非核の政府を求める石川の会 代表世話人）
主　催　非核の政府を求める石川の会　＊フォーラム終了後、第34回総会を開きます

非核石川の会リレーエッセー

集い、歌えるのも平和だからこそ！

越田　和世

五月三日憲法記念日。いつもより早く目が覚めた私は朝日新聞を広げる。「論議なき九条」「変える方がよい三七％」などの文字が踊るのを横目にページをめくる。今日は「憲法を守り・いかして、いのち・くらしを守る政治の実現を」（憲法共同センター）の意見広告が掲載される日。柔らかな母の手と可愛い赤ちゃんの手の写真に「へいわとくらしをまもりつづける社会が願いです　大軍拡、改憲への『大転換』はいやです」とある。あった！「石川のうたごえ協議会」の文字を見つける。

平和憲法施行76周年記念県民集会のオープニング

（５月３日、石川県女性センター）

気になる一面に戻って「敵基地攻撃政府「決着」とあったが、鳩山一郎元首相答弁を基に「決着」などと政府が言うのは見当違い。戦争の放棄を謳った憲法第九条が危ない！と言われて久しいが、国の権力者に対して憲法第九九条【憲法尊重擁護の義務】があるのだから私の中ではその不安はなかったが、政府自民党は数の力と閣議決定で押し切ろうとする。丁寧な説明と言うなら国会を軽んじることはやめてほしい。国民の命を守ると言うなら平和外交にこそ力を入れてほしい。武力での解決は誰も望んではいない。

午後は憲法集会のオープニングで石川九条おんがく隊として参加。数回の練習での参加はとても不安だったが、平和への熱い想いだけで「今この時代に」と「ひとつのピース」を歌った。そして五月二八日には中・高校生・大学生の若い世代の人たちも多く参加する石川県合唱フェスティバルの舞台に立ちこの二曲を歌う。そちらでは所属するコールフォンスで軽やかな曲「曇り日なら」と、福山雅治作詞・作曲の「クスノキ」（長崎市の山王神社に立つ被爆樹の歌）も歌う。うたごえにのせて平和への想いを届けられるとても貴重な機会。まっすぐ、しっかり届けられるように、本番直前の練習会に向けて自主練に励みたい。

集い、歌えるのも平和だからこそ！！

合唱三昧の日々

北川　晴美

コロナが収まり始めた今春、待ってましたと言わんばかりに合唱の世界も全開に。まだマスクははずせませんが、私も合唱三昧の日々になった。行事が目白押しなのです。

五月二八日県合唱連盟フェスティバル（野々市フォルテ）に九条おんがく隊とコールフォンスで参加する。六月四日は白山合唱祭（鶴来クレイン）にサークルあやとり（新婦人小組）で参加。七月一日は石川のうたごえ交流会。七月三〇日はメディカルオーケストラ第九演奏会があり、今回初めて参加します。これは金沢大学と金沢医療センターの方々を中心に医療関係のオーケストラと合唱団が十全講堂で練習、本番は県立音楽堂です。

サークルあやとり定期音楽会

八月末には札幌で日本のうたごえ祭典があり石川からも多数参加、全国から集います。秋には国民文化祭が石川であり、白山市の取り組みで高田三郎作曲「水のいのち」を一〇〇名を超える合唱団で歌います。この曲は人気の合唱曲で全国の合唱団で歌われており、とても魅力的な美しい五章からなる組曲です。（一一月一〇日、松任文化会館ピーノ）

さらに来年予定の準備を始めています。七月七日はサークルあやとり結成三五周年記念演奏会。八月四日には悪魔の飽食福井合唱団で「悪魔の飽食」を作曲者・池辺晋一郎の指揮で歌います。

誘われるままにいろんな合唱団に出掛けていますが、それぞれ特色と魅力があり、指導者、仲間に恵まれて幸せな合唱人生を過ごせています。

ハーモニーの美しさを追求することはもちろんですが、平和を願うメッセージ性の高いうたで思いを表現し伝えていくことが大切だと思います。各地で歌う会やうたごえ喫茶（今はコロナ

対策でお茶菓子は出せませんが）にも取り組み楽しんでいます。全国各地のホールで歌う機会に恵まれ、海外（中国・ロシア・バルト三国）にも出かけて演奏した「悪魔の飽食」は貴重な経験でした。涙ぐむ聴衆、大きな拍手とスタンディングオベーション、言葉はわからなくても通じるんだなあと感動でした。退職後の人生が思いのほか充実したものになったのは歌のおかげでしょうか。感謝の毎日です。

詩人会議かなざわ「独標」より

わたしの5月

ななお　瑠津

おお―
5月よ　5月
緑滴る　私の5月
穏やかな　優しい風が

ほほをなでたら
木々の隙間から
十字の光がさしたら
私の心は幸せに躍る

私が母の身体を離れ
この美しい水の星に
生を受けた5月よ
あなたにどんなに
助けられてきたことか
その月を迎えるたびに

今日の日があることに
この奇跡に気付かされ
悲しみも苦しさも
どこか懐かしい
あなたを感じ
あなたに包み込まれ
越えてきた

5月よ　5月
緑滴る　私の5月
あと　いく度
この喜びと感謝の口づけを
あなたに
捧げることができるのだろうか

編集室より

◎今号が読者に到着する頃、G七広島サミットは閉幕している。最大の焦点である〝核兵器のない世界〟へ向けて、被爆地出身の岸田首相は議長としての役割を果たしたのであろうか。

しかし政権はこれまで核兵器廃絶とは真逆の核抑止強化の動きを強めてきた。昨年末の安保三文書の大軍拡方針に伴い、核兵器を含めた「米国の拡大抑止」は「日本の能力によって強化される」とし、四月のG七外相声明でも核兵器廃絶の実現は「究極の目標」と先送りし、核兵器の存在は「防衛目的の役割を果たす」と正当化し、さらに五月二一日に広島で日米韓首脳会談を開き、北朝鮮の挑発行為に対して、核抑止である「拡大抑止」強化を協議するという。さらにウクライナ侵略戦争で、ロシアによる核兵器先制使用の威嚇により、「核には核を」の世界的逆流が強まっている。

G七に対し、C七（市民社会七）サミット国際会議が四月に東京で開かれ、G七の成果文書に影響を与える「C七コミュニケ」が各国に提出されたらしい。しかしその内容は要するに、①二〇四五年に核廃絶、②禁止条約はオブザーバ参加だけ、③ロシアのベラルーシへの、および米国のNATO加盟国への核配備など、NPT違反が行われているにも拘わらずNPTの一言もない、などその内容に愕然とする。なんだかNGOたちが政府の平和のパフォーマンスを助けている印象が拭いえない。

これらに対し、被爆者団体などから「被爆地広島で、『核は必要』などと発信することは到底許されない」とする批判の声が続出している。当然である。この地球の未来を信じるなら『核兵器禁止条約』こそ必要だ。成果は「やってる感」の演出だけなら、情けない。（中）

非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	行事予定	会場
5	27	土	9:30	核兵器廃絶いしかわフォーラム／中村涼香さん	金沢市下本多町・金沢歌劇座2階集会室
	27	土	11:10	非核の政府を求める石川の会総会	金沢市下本多町・金沢歌劇座2階集会室
	27	土	15:15	県社会保障推進協議会総会記念講演／雨宮処凛さん	金沢市鞍月1丁目・石川県地場産センター
	28	日	13:30	石川県母親大会記念講演／斎藤美奈子さん	金沢市三社町・石川県女性センター
6	10	土	11:00	原水爆禁止平和大行進・富山から引継ぎ式（～23日）	津幡町九折
	11	日	14:00	内灘闘争70年記念事業	内灘町役場町民ホール
	18	日	10:00	DVD上映会「声をあげる高校生たち」（試写会）、「再び沖縄が戦場へ」（番外編）	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階
	27	火	19:30	原発・いのち・みらいオンライン講座／種市靖行さん	オンライン講演
	30	金	19:00	いしかわ自治体問題研究所・講演会／武田公子さん	オンライン講演
7	16	日	10:20	被爆ピアノとうたう会	金沢市鞍月1丁目・石川県庁19階展望ロビー
	29	土	10:00	反核・平和おりづる市民のつどい／ピースデイ	金沢市末広町・卯辰山・平和の子ら像前

＊会報「非核・いしかわ」サポート会員を募集中です。年会費2，000円

戦争遺跡と平和の記念碑 ⑤
強制労働と徴用

佐藤公男

一衣帯水碑と位牌安置所

一九四四年秋から翌年にかけ、七尾港に荷役作業員として中国人三九九人が送り込まれた。倉庫を改造した平屋の宿舎に詰め込まれ、重労働・食糧不足からくる栄養失調で鳥目になり、風呂も入れず過酷な労働で苦しんだ。帰国までの約一二か月間で一五人死亡、六四人が失明した。

位碑安置所

一衣帯水碑

一九七七年八月、七尾市日中友好碑建設委員会は真の友好を誓い「一衣帯水碑」建立。一五人の遺体は市内の大乗寺に運ばれ読経後火葬にされた。八月一五日の碑前祭・追悼法要が現在まで続いている。

白鳥地下軍需工場と朝鮮人宿泊所

一九四五年、加賀市細坪町・百々町の石切場を活用し、中島飛行機(現富士重工)半田製作所の疎開工場(白鳥軍需工場)がつくられた。

上宮寺（加賀市直下町）

建設に動員された朝鮮人宿舎が上宮寺で、現場までの約四キロを徒歩で通った。村人は、野菜、コメ、ときにはゴザも提供した。敗戦後、世話になった各家庭を訪問し感謝の言葉を述べながら別れを惜しんだという。上宮寺正面に「戦争は最大の罪悪である」竹中彰元の言葉が掲げられている。

尾小屋鉱山と朝鮮人徴用

鉱山最盛期(主要生産は銅)一九一四年の総人口は五千人で鉱夫数一七〇〇人。一九三九年から徴用が始まり一九四三年末には二二四人が鉱山内外で働いていた。宿舎は六畳間に五人、休日は月二日と劣悪な労働であった。一九四〇年からの四年間で六四二人中二六三人が逃亡、期間満了の帰国者三九人、不良送還五人、その他五七人の消息は不明である。

（「平和工房　江沼の郷」主宰）

尾小屋鉱山殉難者病疫者之碑（1928年7月建立）

尾小屋鉱山資料館（小松市尾小屋町）

絵手紙コーナー

金沢医療生活協同組合
絵手紙班　竹味恭子

中和池　閉山後もカドミウム鉱毒汚染の〝中和作業〟が続く

【編集室より】

今夏、会報第三〇〇号記念として二五一号から三〇〇号までの『会員エッセー&コラム集』(第三集)を刊行します。絵手紙作品もすべて収載します。ご期待ください。